



CASE
1

「供養家具」という新発想

「技術を生かした
自社製品を生み
出したいです」と
高橋恒仁社長



[有限会社新平堂 | <https://shinpeidoh.com>]

〒012-0105 秋田県湯沢市川連町字大田面 28-6 / TEL. 0183-42-2026・FAX. 0183-42-4688
E-mail: info@shinpeidoh.com



A

秋田仏壇の伝統と技を活かした 次世代へ繋がる供養家具「en:sou」

漆器職人から仏壇づくりのメーカーへ

「新平堂」の始まりは昭和25年。「漆器の塗り職人だった祖父がつくった商品を自ら行商。その跡を継いだ父が仏壇に転換し、法人化しました」と語るのは、社長の高橋恒仁さん。設立当初は、自社でつくった仏壇を直接販売していたという。

中学時代から家業を手伝っていた高橋社長は、東京での大学生活の傍ら、仏壇仏具の聖地浅草の老舗仏壇店で働いた経験を持つ。「経営や目利きのコツを習得し、やる気満々で秋田に戻ってきました」と高橋社長。入社後は販売エリア拡大を目指し、卸業として商圏を拡大していった。50年代後半はオリジナル仏壇を手がけるようになり職人の数も増え、仏壇メーカーとして県内外で周知されるようになった。

技術が評価されるようになると、仏壇や寺院仏具の修復の依頼が入り始めた。「お客様の大切な宝物をお預かりするのです。失敗の許されない厳しい仕事でしたが、この修復により新平堂の技術はさらに上がったという自覚があります」と高橋社長。

現代の住宅事情を踏まえた供養家具への挑戦

仏壇製作、リフォームで実績を積んだ新平堂。昨年からの供養家具「en:sou」シリーズの開発に挑み、当センターの「あきた企業応援ファンド」の採択を受けた。スペース的に仏壇を置くのが難しい住宅事情に配慮しつつも、「先祖を敬い、縁に感謝する」という日本の心を忘れないで…という願いが込められている。居住空間に自然に溶け込むシンプルで美しいデザインは、供養だけにとどまらず生活家具としても違和感なく使用できることが特長だ。

今年2月、「en:sou」は「第2回東京インターナショナル・ギフト・ショー LIFE×DESIGNアワード」でグランプリを受賞。今、全国から熱い注目を浴びている。



B



C

A 存在感のあるフレームに木目を活かした塗装の扉がマッチした「KURA」。扉を閉じればワードローブのように空間に溶け込む。

B 黒ベースの塗りデザインに組子細工を組み合わせた「TOKI 組子八」。LIFE×DESIGNアワードグランプリ受賞作品。

C 今では、大切なジャンルとして確立されたリフォーム。細やかな気配りが要求される仕事だ。

事業概要 あきた企業応援ファンド事業

地域資源を活用した県内企業や経営革新の承認を受けた県内企業の新商品開発等の取組を支援します。

お問い合わせ あきた企業活性化センター／設備・研究推進課
(018-860-5702)まで。